

一節切秘傳抄  
單

特別  
イ 4  
3159  
B14



14  
3159  
B14

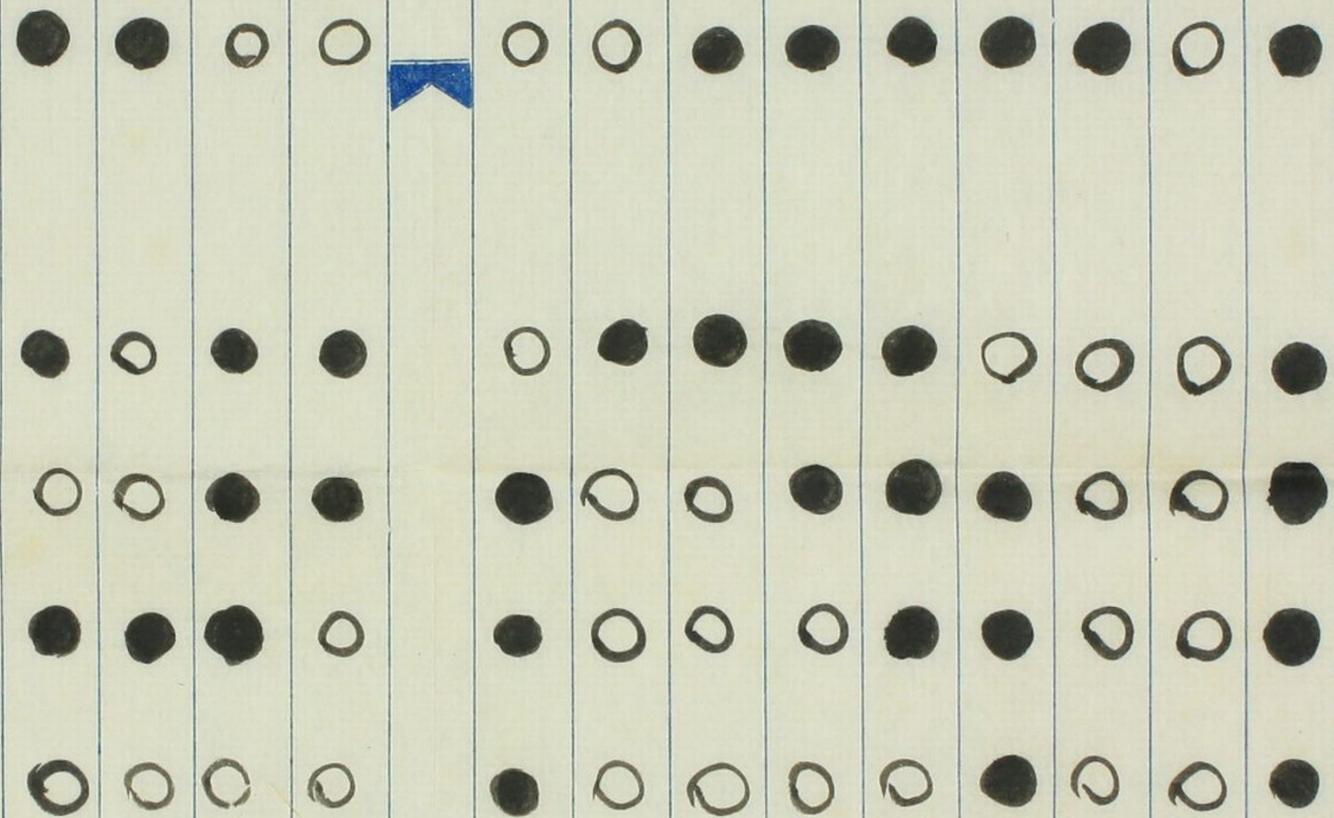
ふのあなは のねこや をまやおののしよ

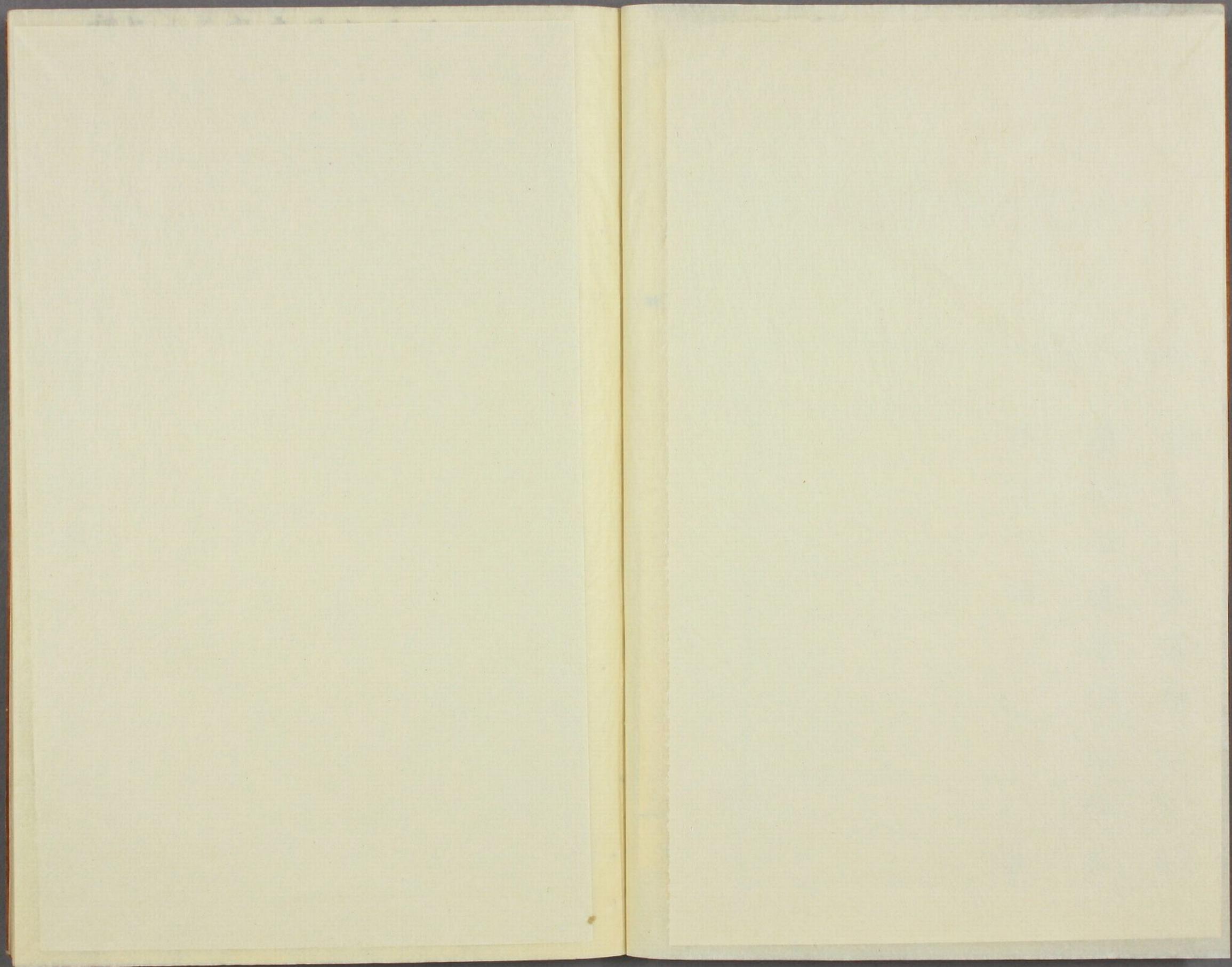
●	●	●	●	●		●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	△
エ	ウ	ホ	ウ	エ		ウ	エ	リ	ヤ	ウ	ウ	ウ	ホ	フ	ホ	フ	ウ	ホ
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
こ	あ	や		こ	ん	の	が	ま	ぶ	ば	わ	い	見	と	か	ま	ゆ	
●	●	○		●	●	○	●	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○
エ	ウ	ナ		フ	ホ	ウ	エ	リ	ヤ	ウ	ウ	ホ	フ	ウ	エ	ウ	エ	○
○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
								の	れ	こ	ん	で	ら	あ	あ	は	で	ゆ
								フ	ウ	エ	ヤ	リ	上	ヒ	ヤ	リ	リ	エ
								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



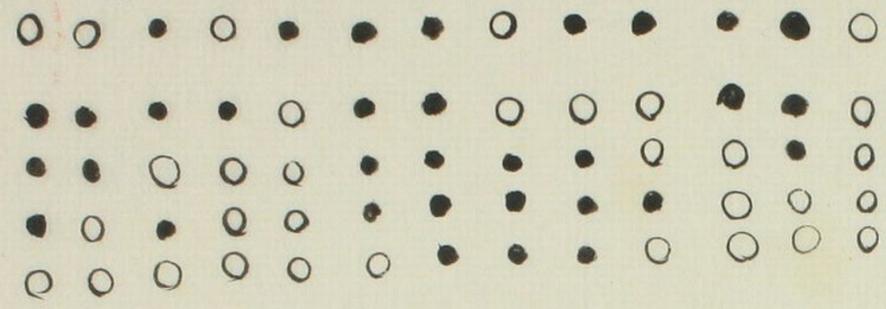
上 下 四 十 七 一 九 五 八 二 三 十 六

上 神 夕 儿      七 伊 才 ホ ヲ 丑 リ ヒ





神上ルリヤホフヒチ夕丑ウイ



一  
音  
如  
我  
傳

全

神上ルリヤホフヒチ夕丑ウイ



先づ高田八八に監觸まらうくせしやど  
 のあうむらうれき実人むく宗佐老人  
 小傳へるうくやうひ傳り物しり来  
 る事宗佐前もつて八傳前書ハ三井町見光  
 院に傳へ日光院ハ安田城長小傳へ城長ハ木  
 島宗親小傳へくより世小伝りより又  
 縁宗長の注を如くは宗親ハ昔ハ縁別  
 乃木宗親七が末孫勇士武略の流流ニ

織田信長公小伝へく一人小名紙あつて信長  
 遊去し一傳ひしよりひくまゝ徳通の力  
 となりて信をわをれを流をうりしむ親念を  
 おとくし尺八の妙音味へはる中興の算  
 山とすけり流のし流とらむ我むまてま  
 風を志すよといへども後みづうふまはら  
 づうふまがし計ううして今書小志宗  
 系心身の外餘力をくむを志すべんに

中より人乃の節とあると申すの事  
一處に僅尺八といふ長さ一尺八寸切尺八  
といふ程の量にありし事知らるる由  
の法は此の程よりいふ事  
ど若しかりかとの家におかし  
枕士は土色なりと申すは  
は尺八の枕の者といふ事  
ふも増えりといふ事

その外もいふ事  
之井川より田などいふ事  
づきを律呂の調子  
は決まらざる事  
いふ事

一は切尺八の事  
は長さ一尺八寸の切尺八  
より下は七寸五分の切尺八

尺八の事

○一節に於て血漚  
 の竹をよきとす  
 血漚の竹竹の竹  
 二節竹の竹の竹  
 好して刺しなま又  
 思作の多く葉て  
 皮を巻く竹竹竹  
 篠まきまき指田竹  
 深つきのまきり  
 ふく竹竹の竹竹  
 下まきり

ふとびそふりく調子遠く物ふれ極  
 てす空くほど筒音残る音種の調子ふあえ  
 せら物之音多し管乃ぶくゆびつえ  
 筆管ふけり方には多し振の節調お  
 也ゆびきひ所之を節の節乃穴七中してゆひ  
 乃あきまけ百廿八の調子の十二より外にお  
 らぶ上しきふりくあきまけの調子多し  
 ふけり筒音の節調のふけり

段たのゆひのあきまけふ百十二のふれ七調  
 子の十二調子よりあふれ七の調子残る  
 らとて筒音は中調の葉の竹数七を  
 二ふつ調子づく地盤の他十二調子も  
 あふれ七のふれ七の竹十七のふれ十  
 と支をあきまけの竹七の竹七の竹七  
 内知あり  
 二ふつ切吹板のふれ七の竹七の竹七

たの子孫もふるまへしな乃大ゆびま  
うは宿成りさ記あふらゆびま  
乃宿をふさ記たのくし好むく  
穴をふさ記。あふらゆびま  
なるさぐし乃穴と云おまこのあは  
からと云。此を二次三ちを四とくま  
あまのさくさくさくさくさくさく  
あまのさくさくさくさくさくさく

Handwritten title in cursive script, likely the name of the book or manuscript.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or date.

フホウエマリト  
神イタル子  
心

これとよくそくおほはしきい  
事成るし他は内マタルこれ  
ニ

⑧  
⑨  
⑩  
⑪  
⑫

⑬  
⑭  
⑮  
⑯  
⑰  
⑱  
⑲  
⑳  
㉑  
㉒  
㉓  
㉔  
㉕  
㉖  
㉗  
㉘  
㉙  
㉚  
㉛  
㉜  
㉝  
㉞  
㉟  
㊱  
㊲  
㊳  
㊴  
㊵  
㊶  
㊷  
㊸  
㊹  
㊺  
㊻  
㊼  
㊽  
㊾  
㊿











△豊海しせゆづり

エヤヤリヤエウ。エヤエウ。ヒイ  
あ乃ききしせゆづり。あしせ乃をゆきこ  
リヤリヤヒリヤリヒリヤ。あやエウ。エヤ  
あちめきしせゆづり。あしせゆづり。あ  
はれり調子乃ききしせゆづり。あしせ  
あしせゆづり。あしせゆづり。あしせ  
だ。但昔時。あしせゆづり。あしせ  
あしせゆづり。あしせゆづり。あしせ

△ゆき

ウエフエタエフエ。ニニフエウエ。ヒエフ  
エウエホウルホ

△返し

ウ、タエフエ。タウルホ

は手昔時。あしせゆづり。あしせ  
ゆづり。あしせゆづり。あしせ

△安田

安田 城長  
かき

夕干夕干。ウキ夕干。ニシテ夕干  
夕干。夕干。イニウキポウルホ

これより東神子乃西へと吹はすに  
羽の位。安田と云仁吹出と云

△和歌

ウキフウキ夕干。ニシテウキ夕干。夕干  
フウキポウルホ

△和歌。子あおあ

は子江別大伴の位と云あ乃佐左の位  
吹あはす<sup>吹</sup>と云吹くる時。は子と云あ  
あ。子我城と云。吹くる子吹あは  
うちふふらふと云。は子と云あ  
帆と云。は子乃申ふ夕干。フウキ  
ウルホト吹と云。吹はす。吹はす。夕干  
エイハフウルホと云。吹はす。吹はす。夕干  
申と云。日走院吹と云。夕干。夕干

フエウエホウルホ

△五

ウ、フエフエタウルホと決之。ねハ節  
手仲と云々宗依 魁人の子と

△后子

ウエフエタエフエ。ミニフエタイタチタ  
エフエ。チタチ、タエフエ。ミニフエウエ。ヒ  
エフエウエ。ホウルホ

△道 卯子よおをし

け子ハ文録乃以。後湯成後乃當后ホ素  
竹のきめ也。あゝあゝ。は子我唱し  
させ給ふ。ちるふよりき。后子よりふと

△ころび

イエフエタチタエフエウタエフエ。ミニ  
フエ、ウ。タエイエ。フウルホ

△なし







ウリヤリヤエ。ウリウリウフウ

ウリヤリヤエ。ウリウリウフウ  
ウリヤリヤエ。ウリウリウフウ  
ウリヤリヤエ。ウリウリウフウ

△平調呂乃音丸

エホホウホホ。エイエイエホエ

△同律の音丸

イエフエエウ。タイタエフエ

△双調呂の音丸

ヤウホウルフ。フウホフマ

△同律の音丸

イヤフマ。タヒタマフマ

△黄鐘呂乃音丸

ウエウ。千々ウルホ

△同律の音丸

ヤヤ千リヤエエ。ヤエルホ。フエ千リチ

△盤流呂の音丸

エヤエ。ヒタエヤウ。ホフエウホ、

△四律音丸

リリヒイリヤマ。リヤエウ。ホフエウホ、  
右つまじこ。調子物時。まがはきまは快ど  
きだ。調子うらそ。うらね物。げあき  
えあま。い。うごも。数さごま。うら  
宗君流の事おふ。傳らふ。これ。数ハ  
量陸廿三。整海十六。一越十五

平調十三 双調十一

けおき。うらむ。うらま。ま。うら。う。入し  
み。うら。熱乃。き。な。か。しの。ゆ。り。な。う。は。ら。お  
君一子お傳れおなす。

糸竹の心集 上巻終



